

県内総合

建設情報 *Iwate*

本体部の工事が本格化へ

平泉スマートIC 21年3月の供用目指す

平泉町
NEXCO

NEXCO東日本、平泉町で進める東北自動車道平泉スマートインターチェンジ（IC）の整備は、用排水溝など水路の整備や地盤処理を内容とする付帯工事が進み、これから本体工事が本格化していく。本体工事では、カルバートボックスを構築後、迂回路を解体し、本体土工を進めていく。施設設備工事なども合わせて進め、21年3月の供用を目指す。

平泉スマートICは、平泉前沢ICと一関IC間に設ける計画で、町道祇園線と接続させる。一関ICから約4.4km北方、平泉前沢ICから約7.1km南方に設置する。

接続構造は、本線直結型のシングルトラペット。一旦停止型フルインター形式で24時間利用可となるもので、総事業費に現段階で約35.6億円を想定。ETC車載器を搭載した全車種が利用でき、計画交通量が1日当たり1110台となっている。

14年8月に国から連結許可・事業認可となり、自動車道から料金所までをNEXCO、料金所から接続町道までが平泉町の事業区分となっているが、平泉町がNEXCOへ負担金を出し、実質はNEXCOが主体となって推進。町では、用地買収の際の補助を行う形で事業展開を図っている。

15年度に路線測量や細部測量、地質調査、詳細設計などを実施。16年度には、幅杭測量や幅杭設置を行った後、用地契約に入った。17年度から先行工事として、付

帯工事を開始した。今春からの農作業に備えての送電線移設や水路付け替え、迂回路の整備に向けた下地工事などを内容とするもので、平野組が施工を担当している。本体工事については、加藤建設（愛知県蟹江町）が担当。迂回路の道路の造成、IC造成の盛土工事や構造物などの施工を行う。事業量は、切盛土量が約19万立方メートル、本線から料金所までが直線距離にして約270メートル、料金所から祇園線までが約150メートル、ともに幅員が7メートルとなっている。

構造物は、カルバートボックス4基、パイプカルバート（用排水路）6基を設ける。パイプカルバートに関しては、φ1.5メートルを1基、φ1.0メートルを4基、φ0.6メートルを1基の内訳となる。

カルバートボックスは、町道の機能確保3基、ICランプ1基の内訳。それぞれ町道祇園線が延長39.640メートル、幅員10.0メートル、高さ5.5メートル、町道佐野原祇園線は延長18.020メートル、幅員9.5メートル、高さ5.3メートル、町道祇園2号線は延長11.300メートル、幅員5.0メートル、高さ3.9メートル、Eランプ部が延長31.840メートル、幅員6.0メートル×2連、高さ5.8メートルとなっている。

このうち、町道祇園線のカルバートボックスは、既存（延長26.640メートル、幅員6.0メートル、高さ5.0メートル）を再構築するもの。町道の改良が実施されることから、拡幅計画に合わせた形に造り直す。

祇園線とランプ部のカルバートボックスは、高速道路を横断するものとして設置することから、高速道路を一端迂回させる必要がある。そのため迂回路の整備を最初に行い、交通の流れを迂回路に移したのち、本線部のカルバートボックスを構築する。構築後に、高速道を基の形状に戻し迂回路を撤去。迂回路は、そのまま高速道として利用も可能な程度の仕様となっており、迂回路



本体工事が本格化する平泉スマートIC

ニュースのお知らせ

〒020-0015 盛岡市本町通3-9-33
本社編集部へ
TEL (019) 623-8201
FAX (019) 623-8204

の盛土に利用した土を再利用する形でICの形状を仕上げていく。

工事としては今後、舗装工事や施設設備工事の発注を予定。本体工事の進捗を見ながら発注時期を見定めることとしており、施工に向けた設計は今年度内の外部委託を見込んでいる。

舗装工事は1件を発注する見通し。施設設備は、ETC設備や道路照明、管理施設（建屋）といった内容となるもので、複数にわたっての発注が計画されている。

今年度は拡幅改良推進 ＝葛巻町・茶屋場田子線＝ 19年度の完成を目指す

葛巻町は町道茶屋場田子線の改良を進めている。18年度は、引き続き拡幅改良を推進するほか、路盤工なども計画。19年度内の完成を目指す、事業が進められている。

事業区間は、茶屋場の交差点から同町役場裏付近までの1810メートル。幅員は、車道部が6.5メートルで、川側に1.5メートルの歩行空間を設ける。12年度に事業着手し、13年度に着工した。

同事業では現在、17年度からの繰り越しで、JA新いわて葛巻中央支所付近から大橋までの区間と大橋から葛巻小付近までの区間で拡幅改良工事を実施中。18年度は、残りの葛巻小付近から役場裏付近までの拡幅改良や事業区間全線での路盤工などに取り組む予定としている。18年度の当初予算には、物件移転補償費なども含め4億6000万円を計上している。

同路線は、中心市街地の有事による通行制限時には迂回路機能を可能とする路線だが、事業区間内は幅員が狭小。茶屋場から大橋間では、幅員が3メートルとなっている。



既存の町道茶屋場田子線

野中前新山線での歩道設置に着工へ

＝奥州市・前沢＝

奥州市は、前沢の市道野中前新山線での歩道設置について今年度から工事を開始したいとしている。同路線は通学路などとして利用されているが、歩道が設置されていない区間があることから、事業を実施する。今年度の施工延長は200メートル程度を見込んでいる。

野中前新山線については、沿線のはたて農地整備事業が実施されたことに伴い、創設換地により用地を確保して道路改良が実施された経緯がある。それまでの路線が狭いことで線形も良くなかったことから、09～13年度で事業を展開し、片側歩道の全幅10.5メートルの道路が整備された。

ただ、一部区間には歩道が設置されていない。県道前沢東山線との接続部からの400メートル区間に歩道設置がない一方、前沢東山線では、

県で歩道設置事業を実施。

野中前新山線の沿線には、前沢北幼稚園が立地する。路線が前沢中生徒の通学路にもなっていることなどから、400メートル区間に歩道を設置することとした。

400メートル区間は歩道がないものの、車道部分の幅員は改良済み区間とほぼ同等なことから、今回の事業では歩道設置のみを施す。改良済み区間と同様の西側に3.0メートルの幅員の歩道を設置する構えだ。概算で事業費に8000万円ほどを見込んでいる。

歩道の用地に関しては、事業区間の半分程度が創設換地により確保済みだが、残りの半分では用地買収。用地買収は前年度で完了となり、今年度から工事を開始する。

施工は、18、19年度の2カ年で進めて完了させたいとしている。今年度は、区間の北側に施工を実施したい考えた。

なお、路線は水沢競馬場へアクセスする路線でもあり、国道4号の迂回的な利用もされている。交

通量が多く、地元からは今回の整備区間以北、水沢との境となる県道田原折居線との交差点までの区間についても、歩道のない箇所への歩道設置を求められている。

今回の400メートルも含めて全体で2400メートル区間の歩道設置を、市では構想。（2400メートル区間の総事業費は約5億円）。残りの2000メートルについては、400メートル区間の施工が完了した後、分割で事業化させて、施工を展開していきたいとしている。加えて、田原折居線から北側については、瀬台野高根線の名称となっており、瀬台野高根線でも歩道設置が計画されている。



歩道設置を計画する野中前新山線

いわて防災学教室

災害から学び、災害に備える

三陸地方の津波災害と復旧・復興 ～明治以前・明治三陸津波～



岩手大学地域防災研究センター特任助教

熊谷 誠

2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震（以下、東日本大震災）による津波は、1933年の昭和と三陸地震津波以来、78年ぶりに三陸沿岸に大きな被害をもたらした。三陸沿岸はしばしば「津波常襲地」として紹介されるが、115年前にも明治三陸地震津波（1896年）が発生し、青森・岩手・宮城を中心にさらに大きな被害をもたらされた。三陸では江戸時代以前にも津波の記録が残されており、869（貞観11）年、1611（慶長16）年、1677（延宝5）年、1793（寛政5）年、1856（安政3）年に大津波があったことが古文書や地質調査などから明らかになっている。これらの津波の度に三陸の沿岸部では、集落の復旧・復興が繰り返されてきた。

明治三陸津波以前から、効果的な対策とされてきたのが住家や集落を付近の高台等へ移す高台移転である。古いものでは岩手県山田町に平安時代の伝承があり、要約すると、役行者（役小角）が、陸中国船越浦に現れて、里人に『この海辺に住んではいけない。村を高台に建てないと、すぐさま災害に見舞われる』と戒め、村人もこの戒めを千二百年間守り続けている、という内容のものが残されている。

明治三陸津波の被害は、東日本大震災の規模を上回るもので、唐丹村（現釜石市唐丹町）や田老村（現宮古市田老）は、地域の住家のほとんどが流出し、人口の8～9割が犠牲になるなど、「全滅」に近い被害を受けている。こうした地域では、多くの家系が途絶える恐れがあったため、被災を免れた住民に加え、出稼ぎで村を離れていた者の呼び戻しや縁故者を頼って人を集め、できる限り家を継がせて家系の復興が行われた。明治の津波後には、防潮堤建設や

集落の高台移転が各地で行われたが、国からの助成を受けたものはほとんどなく、その土地の村長などの指導者や有力者の指導で行われたものが多かった。そのため、移転に要する費用も各自の負担やその土地の篤志家からの支援に頼るばかりであった。

唐丹村の本郷集落では、津波後、早い時期に海岸から200m程度離れた場所に住民が自力で借り住まいの共同長屋が建てられた。その後、本格的な住家の復興に際して、地区の指導者の立場の古老が、津波浸水の恐れのない高所の所有地を宅地に提供し、住民へ集団移転を勧めた。しかし、実際に高台へ移転したのは、古老の家を含めた5戸のみで、集落は津波浸水のあった元の屋敷地に再建された。多くの家が浜に残った理由として、高所へ移転すると生活用水の不便や集落の中心である浜から離れてしまい生活が不自由になること、先祖伝来の土地を離れたいこと、津波後のイカの豊漁が続いたことなどが、当時の体験者への聞き取り記録から挙げられている。結局、唐丹村本郷では数年を経て、高台に移転した5戸も高台での生活や漁業の不便も手伝ってか、元の屋敷地に再建した集落に合流していった。唐丹村以外でも高台へ住家を移転する試みが各所で行われたが、先に挙げたような理由から、ほとんどの地域で、時間の経過とともに元の住家があった海浜近くに帰ってしまい、37年後の昭和と三陸津波で多くの集落が再び被災することとなった。こうした再度の被災を受けて、昭和と三陸津波後には、国・県・村といった行政が主導する集落の高台移転施策が行われたが、昭和と三陸津波後の高台移転施策については、また、改めて紹介することとしたい。

●植栽 ●庭園樹 ●造園設計・施工 ●土木工事一式 お気軽にご相談下さい

盛岡市指定下水道工事店

株式会社 上の島

本社 盛岡市下太田下川原136-1 電話 658-1100(代)

下水管路に携わって35年

お問い合わせ・ご用命は TEL (019) 673-8211・658-1113

株式会社 東北ターボ工業 http://www.t-turbo.co.jp/

本管、管口、取付管、大口径の 流量、目視、T V調査、洗浄、止水、削孔、管更生工事。

調査・補修・更生工事のプロ集団

水と地盤のプロ集団

旭 旭ボーリング株式会社

本社 〒024-0056 岩手県北上市鬼柳町都鳥186-1 TEL: 0197-67-3121 FAX: 0197-67-3143

営業所 盛岡・一関・宮古・釜石・大船渡 旭ボ 検査

バケット以外も取り扱います！

パワークラッシャー

壊す
TSカッター
TSクラッシャー
小割
タックル
チルトフォーク
ロータリーフォーク
油圧ブレーカー
ベビークラッシャー
ストレンジャーバケット
アイアンフォーク
Zフォーク
コンクリート小割機

掘る
クラムシェル
アースドリル
・電動式、油圧ユニット式φ38～350
・BH搭載型油圧式φ150～600
ハンドオーガー
スコッパー
サイレントドリル
アタッチドリル

アーム
パイプクラム
スライドアーム
エクステンションアーム

バケット
法面・狭巾・広巾
シングルリッパー
リッパーバケット
三角バケット
スケルトンバケット
生コンバケット（機械式）
"（油圧式）
反転バケット
Mバケット（ミキシング）
ミキシングバケット（油圧式）

石つかみ
ポリバケット
フォーク
ロータリーフォーク
その他
ダグダ（油圧ロックスプリッター）
リフティングマグネット
油圧ボールハンマー
エアボールハンマー
松杭打機
パイルハンマー
油圧コンクリートチェンソー
油圧ハンドブレーカー
パイルクラッシャー φ300～600
パイルカッター φ300～800
油圧振動プレート
油圧カッター
トルネード
抜根チョッパー

丸順重工(株)販売代理店

レントリー八戸(株)

本社：八戸市田向三丁目3番18号 ☎(0178)22-6200(代) FAX 22-6300

貸します 売ります

盛岡営業所

盛岡市羽場14-59-1 ☎(019)614-0600(代) FAX 614-0601